キャリアデザイン

キャリアデザインとは、未来の自分の姿をデッサンすることである。それは夢と希望に満ちた心躍る自分であり、心からなりたいと願う自分である。それはまた、自分の興味や能力と価値観という自らの特性を生かし切った自己実現の姿と言ってもよいだろう。

また、キャリアデザインという言葉は、すでにメジャーになりつつある。法政大学では、すでにキャリアデザイン学部が設置され、キャリアデザイン学会という学会までできた。

デザインと聞くと、われわれは建築デザインとか、インテリアデザイン、ファッションデザインなどが、頭に浮かぶ。ひと頃問題になった建築設計に関する耐震構造偽装事件。地震に耐えられる鉄筋鉄骨の本数が実際には不足し、建築基準法で定められた構造になっていなかった事件である。建築の設計デザインでは、鉄骨や鉄筋の数まで詳細に記入し、完成時には、実際に目にすることができ、手にすることもできる現実の形になる。

ところが、キャリアデザインの場合は、マンションやビルというモノを作るハードな建築設計デザインとは違い、「働き方」「生き方」という人間のもつソフトのデザインである。あまりに精緻な計画はいらない。精緻に設計しても、そうならないことが多いだろうし、挫折感も覚え、何より面白くない。キャリア心理学のクルンボルトも、「計画された偶然性」という1999年に発表された論文の中で、キャリアが形成される決定要因として、その8割は偶然の出来事だと論述している。(そういえば、私が記者になったのも、思いがけずカウンセラーの道に入ったことも、まさに偶然だった。)

キャリアデザインは大まかでいい。ただし、その方向はしっかり決める必要がある。自分の興味や能力、価値観等を生かす精度の高い方向で選択決定せねばならない。そのためには、Ⅰ. キャリアビジョンとⅡ. キャリアゴール、それに伴うⅢ. アクションプラン(行動計画)の三部構成で、キャリアをデザインする必要がある。

まず第一には、キャリアビジョンである。これは、自らの人生をどのような方向に進んでいくのか、進路という意味合いが強い。出港する船にたとえれば、世界のどの地域のどの国を目指すのかを吟味検討するのである。どこの国へ行くと自分の生き方が実現できるのか。統制が厳しく貧しい国の現状から逃れたい人は、自由で豊かな国アメリカを目指すのかもしれない。言い方を変えれば、どの世界に自分を捧げるか、どの分野で人生を展開するか、ということである。産業界か、教育か、医療福祉か、それともスポーツの世界か、360度全方位を眺めながら、目指す分野を決定するのである。

アメリカ大リーグで活躍するイチローは、小学6年生の卒業時に、すでにキャリアビジョンとその時点でのキャリアゴールを、文集の中で明確に語っている。

「僕はプロ野球の選手になる。西武か中日に指名され、契約金は1億円が目標である」。後に彼は目標どおり日本プロ野球のドラフトにかけられプロの野球選手になった。ただし、ドラフトでは4位だったので、1億円はもらっていなかったはずだ。

彼はこのキャリアビジョン等を達成するために、行動計画を立て、確実に実行していくのである。それは、夕食前の3時間のキャッチボールを中心とした練習、夕食後はバッティングセンターへ行き、3セッション(1セッション50球)行った。それも、1年360日に及んだという。ここまでアクションプランが実行されれば、今日の自分と未来の自分とが結びつき、最も主要なキャリアビジョンやキャリアゴールの達成を信じる力も、一層湧いてくるであろう。

(文責 金屋光彦/参考文献「キャリアデザイン概論」社団法人雇用問題研究会刊)